

令和5年度 数理・データサイエンス・AI教育プログラム 自己点検・評価結果

令和6年3月25日

自己点検・評価委員会

自己点検・評価の視点		自己点検評価の概要
学内からの視点	① プログラムの履修・修得状況	本プログラムは令和4年度に開講し2年次で修了できるカリキュラムにしている。令和5年度は1年生168名が履修中、2年生155名が修了した。
	② 学修成果	プログラムに関する科目の成績は、1年次においては、情報処理I aの秀優が23.5%、不可が38.8%、情報処理I bの秀優が59.3%、不可が16%と不可の割合が昨年度より多い結果となった。これは、昨年度の情報処理Iの秀優の割合がaが68.8%、bが91.8%と割合が高く試験内容が容易であったと考えられ、科目担当者が試験内容の難度をやや上げたためである。2年次においては、情報処理II aの秀優が27.8%、不可が10%、工学概論の秀優が58.9%、不可が0.6%、工学実験・実習2は秀優が66%、不可が0%であった。なお、不可であった学生に対して再試験を実施した結果、全員合格している。 試験結果を鑑みて再試験を実施することなくすべの学生が合格できるよう試験内容の精査を行うとともに科目担当者ははじめ各教科、コースに対して教務部から科目に対する興味関心や学習意欲を高めるよう働きかけよう努める。
	③ 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度・推奨度	プログラム科目に関する学生の内容の理解度は、授業アンケート結果から、「理解できた」「普通」の回答が情報処理I a94%、情報処理I b99.5%、情報処理II a95.4%、情報処理II b96.7%、工学概論a94.3%、工学概論b95.5%、工学実験・実習2は96.1%であった。このアンケート結果から、授業内容を概ね理解していると判断できる。今後も学生の理解度向上に向けた改善や取り組みに努める。
	④ 履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗度	本プログラムに関する科目は必修科目で構成している。今後もデジタル社会に貢献するために必要な数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な知識や能力を身に付けることができるよう必修科目として開講するとともに学修成果や学生の理解度、授業アンケート結果を活用して、継続的に授業内容の改善や工夫を実施する。
学外からの視点	⑤ 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本プログラムは令和4年度開講し2年次で修了するため本年度155名が修了したが、プログラムを修了している卒業生はまだいない。本プログラム修了生が卒業するまでに数年あるが、毎年企業および卒業生に対して実施するアンケート内容に本プログラムに関する内容を追記して意見等を求め改善につなげる。
	⑥ 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	令和5年10月に開催した研究シーズポスター発表会で数理・データサイエンス・AI教育プログラムについて一般の方から意見をいただいた。この意見を参考として、本プログラムの内容や手法等について力を入れるべき内容について今後の改善に役立てる。
	⑦ 数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	数理・データサイエンス・AIに関して、学生が興味関心を持ち、楽しみながら学べるよう講義だけでなく、コンピュータや情報機器端末を利用した実習実技を主とした授業内容を引き続き実施する。
	⑧ 内容・水準を維持・向上しつつ、より「わかりやすい」授業とすること	本プログラムに関する科目は、本年度においても制御情報コースの専任教員および非常勤講師が主となって担当し、実習系科目においては、操作方法や学生からの質問に対応できるよう教員2名体制で実施している。学生がより理解しやすく分かりやすい授業となるように、学生からの授業アンケート結果や意見を参考にしながら今後の授業内容の改善や工夫に努める。